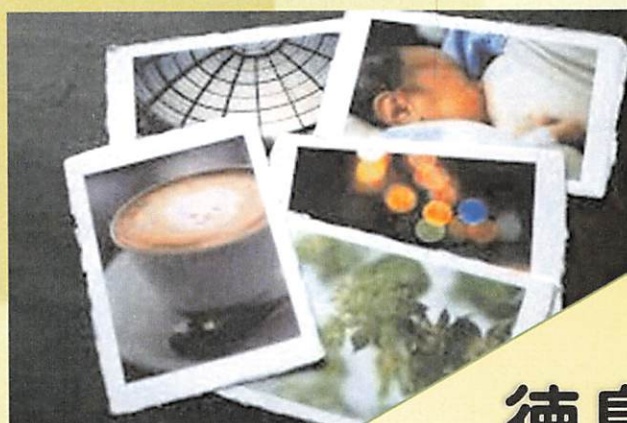


小学校4年 社会(県の学習)

県内の特色ある地域



徳島県



文教大学 教育学部社会専修



## はじめに

小学校社会科の地域学習では、子どもたちが生活の場から自らの足元を見つめるなかで、社会のあり方を考えます。その際に活用する教材が各自治体によって編纂された副読本となります。本学の社会専修は、社会科を専門として将来、教員をめざす学生たちの学びの場です。こうした学生たちに、身近な地域の教材を発掘・開発する力を持って学校現場に立ってもらいたい。そのような意図をもって毎年、ゼミで地域調査を通じた教材開発の活動を行っています。

本冊子は、2019年8月26日から30日の期間、ゼミ学生12名で徳島県美馬市・吉野川市・徳島市・鳴門市を中心に、小学校社会科第4学年の単元「県内の特色ある地域」をテーマとした調査を行い、その成果を学校教材化して、社会科副読本としてまとめたものです。その際に、昨年度に引き続き徳島県北島町の小学生を対象に当該単元を学習させることを想定して、どのような内容構成がふさわしいかとの課題設定のもとで本冊子の作成を行いました。

この単元は、学習指導要領(平成29年告示)において、「地理的環境と人々の生活」(地理的環境の特色をいかしてまちづくりや産業の発展に努めている県内の地域の様子)が大きな枠組みとなっています。具体的には、三つの特色ある地域を県内から選択し、自分たちの住んでいる自治体と比較しながら、それら地域の特色を学習するものです。三つの地域は、学習指導要領の項目内容を踏まえ、以下のように選択しました。

### ① 伝統的な地場産業を受け継いでいる地域

古くから伝わっている技術・技法を受け継ぐ伝統的な工業や、地域の特性を生かして独自の製品を生み出している産業として、吉野川市の「阿波和紙」を取り上げた。

### ② 地域の自然や伝統文化の資源を保護・活用している地域

自然の風景や歴史的景観、文化財や年中行事、土地の産物といった地域資源を保護・活用して地域づくりを行っている事例として、美馬市脇町の「うだつの町並み」を取り上げた。

### ③ 国際交流に取り組んでいる地域

近年の外国人お遍路さんの増加に着目して、「遍路文化」の世界遺産登録にむけた活動、市民の「お接待」による外国人との交流など、鳴門市・徳島市の活動を取り上げた。

これら三つの地域の特性に着目し、人々が協力して、特色あるまちづくりや観光などの産業発展に努めていることを学習します。内容構成においては、それぞれの地域特性を自然的条件と社会的条件において捉え、そこに営まれる人々の生活および価値観こそが、地域独自の文化(生活文化)を形成する基盤であることが認識できるようにしました。さらに、伝統や生活文化に関する歴史的事象は、私たちが生きる現在の社会との関わりにおいて捉えさせること、その地域が他地域との関係性の上で展開してきた、また現在も展開していることを捉えさせるように留意しました。

調査に際しては、各地の公的機関(市役所や資料館等)や法人において、資料の閲覧・提供に関してご協力いただきました。さらに、地域住民の方々には聞き取り調査において大変お世話になりました。ここに改めてご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

別冊子として、本副読本をもとに実際の授業実践を想定した教材研究や学習指導案、学習用ワークシートなどを掲載した研究報告集を作成しました。今回は直接に学校現場との協働はできませんでしたが、今後、子どもたちの指導に直接あたっている先生方からご意見・ご指導をいただきながら、学校現場で実践可能な授業開発を進めたいと考えています。



# 小学校4年 社会(県の学習)

## 県内の特色ある地域 (徳島県)

### 目次

|   |  | ページ |
|---|--|-----|
|   | 特色ある地いきと人々の暮らし <small>とくしまけん</small> 徳島県   | 2   |
| 1 | 阿波和紙を受けつぐまち <small>よしのがわし</small> 吉野川市   | 4   |
|   | 阿波和紙ができるまで<br>和紙作りのさかな吉野川市～和紙作りの歴史～<br>阿波和紙の特ちょう<br>阿波和紙の新しい文化をつくる                                     |     |
| 2 | 古い建物を守るまち <small>たてももの</small> 美馬市 <small>みまし</small>  | 12  |
|   | 美馬市に残る古い建物<br>うだつのまちなみをほぞんする<br>古いまちなみをいかした住民の活動<br>これからのまちづくり   |     |
| 3 | 四国遍路の文化を世界に <small>しこくへんろ</small> 鳴門市・徳島市 <small>なるとし とくしまし</small>                                    | 20  |
|   | 徳島県にやって来る外国人<br>外国人のお遍路さん<br>世界遺産の登録に向けて <small>せかいいさん</small><br>四国遍路による国際交流 <small>こくさいこうりゅう</small> |     |



# 特色ある地いきと人びとの暮らし とくしまけん 徳島県



▲① 吉野川市の阿波和紙（紙すき）



▲② 美馬市のうだつの町並み（ボランティアの案内）

## （1）さまざまな特色を持った地いき

徳島県には、どのような特色をもった地いきがあるのでしょうか。

りなさんたちは、県内の各地の写真を持ちよって、地いきの特色や人びとの活動について話し合いました。



「わたしは以前、よしのがわし吉野川市たいけんに行って紙すき体験をしたことがあります。」



「みまし美馬市には江戸時代にえどじだい藍商人あいしょうにんたちがつくったうだつのまちなみがのこっています。」



▲③ うだつのまちなみ（美馬市）



▲⑤ 四国遍路の札所（鳴門市・徳島市）



▲④ かずら橋（三好市）



▲⑥ 阿波和紙（吉野川市）

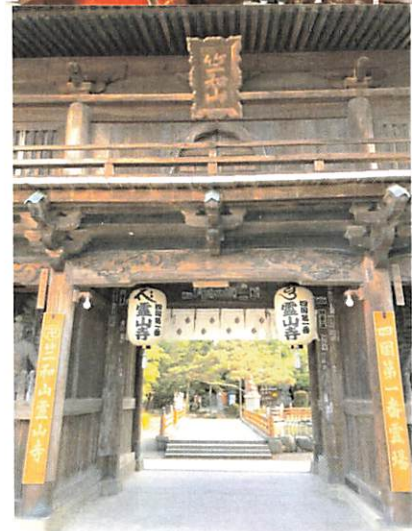


⑦ ウミガメ産卵 ▶（美波町）





▲⑨ 三好市祖谷のかずら橋 (⑧・⑨ 阿波ナビ HP より)



▲⑧ 鳴門市の靈山寺  
(四国八十八か所の一番札所)



▲⑩ 美波町の日和佐うみがめ博物館カレッタ (博物館 HP より)



「鳴門市の<sup>なるとし</sup>靈山寺<sup>りょうぜんじ</sup>へお参りに行った時に、<sup>かさ</sup>笠と<sup>はくい</sup>白衣を身に着けた人がたくさんいました。なかには外国から来た人もいました。」



「吉野川上流の<sup>みよしし</sup>三好市は山地が広がり、自然ゆたかな景色が見られます。深い谷には、<sup>しよくぶつ</sup>かずらという植物で住民が作った橋がかかっています。」



「美波町<sup>みなみちよう</sup>の大浜海岸<sup>おおはま</sup>は、きれいな<sup>すなはま</sup>砂浜で、アカウミガメの<sup>さんらん</sup>産卵地として有名です。ウミガメの博物館もあって、<sup>がくげいじん</sup>学芸員さんがウミガメの<sup>ほご</sup>保護や<sup>けんきゆう</sup>研究をしています。」

## まなびの進め方

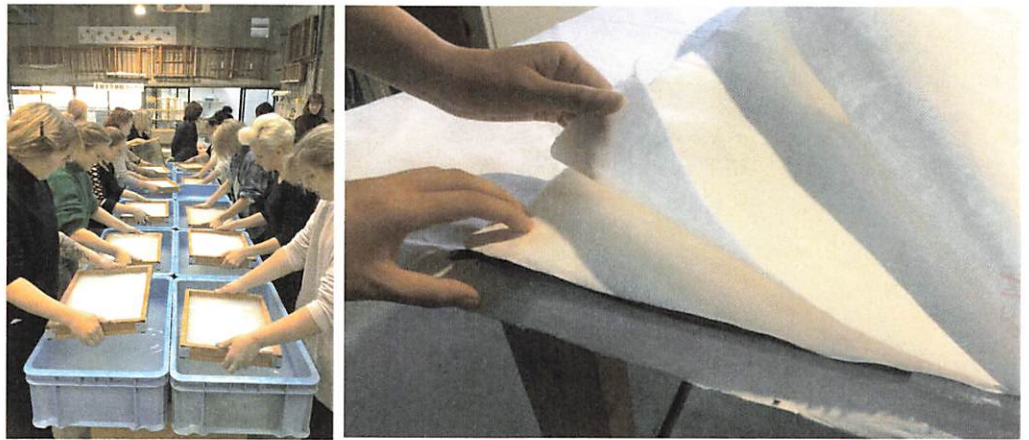
県の中で、行ったことのあるまちや知っているまちを出し合おう。

発表したまちの中から、どのまちを調べたいか、決めよう。

県内の特色あるまちについて、何を調べるのか、話し合おう。



阿波和紙はどの  
ようにして作ら  
れるのでしょうか。



紙すき体験の様子(左)・できあがった和紙(右)(アワガミファクトリーHPより)

## 阿波和紙ができるまで

### (1) 阿波和紙ってなに？

私たちがふだん使っている紙は洋紙とよばれ、木材のパルプが原料で、今から約150年前の明治時代めいじじだいに欧米おうべいから作り方が伝わりました。日本独自の紙は、和紙と呼ばれます。

徳島県とくしまけんで作られる和紙は、阿波和紙とよばれ、現在も吉野川市を中心に生産されています。徳島県の和紙作りは、今から1300年前に、忌部氏いんべし（天皇てんのうに仕えていた）の一族が始めたといわれています。

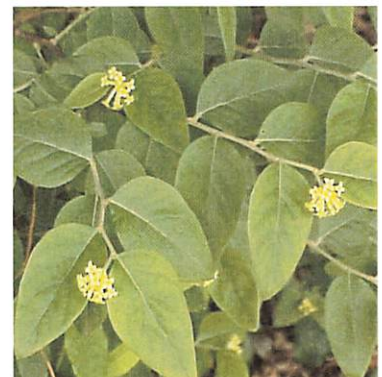
原材料は、コウゾ、ミツマタ、ガンピという木のせんいが使われています。これらのせんいは長くて強く、光沢こうたくがあり、阿波和紙を作るのに適てきしています。



▲① コウゾ



▲② ミツマタ



▲③ ガンピ



あわわし  
 (2) 阿波和紙ができるまで



▲ コウゾをしゅうかくする  
 11月～12月にしゅうかくした原料をかんそうさせる。



▲ コウゾの皮をはぐ  
 ナイフで皮をけずり、かんそうさせてほかんする。



▲ 皮をにる  
 水につけてやわらかくし、アルカリえきでにる。



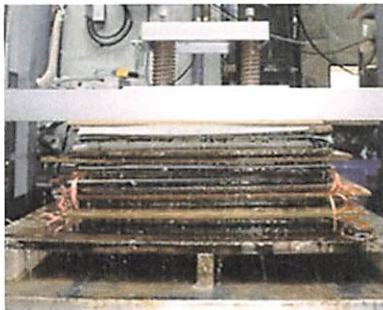
▲ すく  
 せんいを水にとかし、「ねり」(とろろあおい)を入れてよくまぜる。



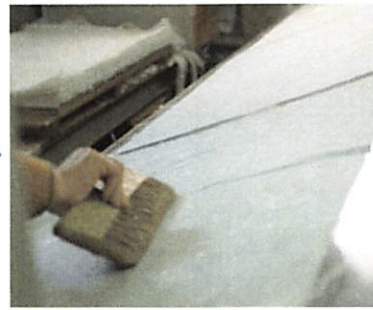
▲ たたきほぐす  
 たたきぼうでたたいて、せんいを一本ずつばらばらにする。



▲ ちりを取る  
 流水に入れてあくぬきをし、ちりを取る。



▲ しぼる  
 水を流した後に6時間かけ押しゆくする。



▲ かわかす  
 天日やかんそう機でかわかす。



完成!

すべて手作業だね。できあがるまでに時間や手間がかかりそうだな。

コラム ティッシュでハガキをすいてみよう!

材料：ティッシュ、ペットボトル、とうふパック、バケツ、折り紙(お花紙)、タオル、はい水口ネット、画びょう

- ① 細かくちぎったティッシュと水(1/3～半分)をペットボトルに入れ、よくふる。
- ② とうふパックの底に画びょうで穴をあけ、はい水口ネットをしく。
- ③ ペットボトルの中身を②の中にそそぎ、その上に別のはい水口ネット、とうふパックを重ねて水をきる。
- ④ ゆっくりとうふパックと排水口ネットをはがし、ハガキをタオルの上において2、3日乾かす。





なぜ吉野川市で和紙作りがさかなになったのでしょうか。



▲① 高越山



▲② 川田川

## (1) 自然ゆたかな吉野川市

吉野川市は、徳島県北部のほぼ中央、吉野川の中流いきにあります。市の南部は、阿波富士とよばれる高越山をはじめ四国山地の山々が連なっています。高越山では、昔から山のしゃ面にコウゾの木が植えられていました。そのため、「コウゾの山」とよばれ、この言葉がにごって「こうつさん」の名前になったともいわれています。

和紙作りには、きれいな水が大量に必要です。高越山から流れる川田川は、昔から水がきれいなことで有名です。流いきの住民は、この川の水を生活や農業、さらに和紙作りに利用していました。

## (2) 紙すき農家の冬仕事

阿波和紙の生産は、江戸時代から明治時代にかけて最もさかんでした。和紙作りは、農家の冬の仕事でした。今から約150年前の明治時代には、吉野川市山川町地区に200軒をこえる紙すき農家がありました。



吉野川市山川町川田地区には、昔の歌が伝わっています。それは、冬の紙すき仕事は、水がとつめたく、つらいので、むすめを紙すき農家にお嫁にやってはいけない、という歌です。

水 川 川 む  
仕 田 田 す め  
事 紙 田 に や り て  
 す き、 や る な、 きて  
 けん、



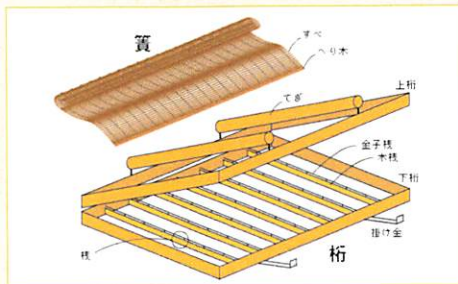


▲③ 川水でのちり取り作業  
(アワガミファクトリーHPより)

白くてきれいな紙をたくさん作るには季節が重要です。

- ・水がすんでいて、きれいな季節がよい。
- ・原料のコウゾの皮は、冷水で水洗いしてよごれやちりを取り、その後、冷水に長時間さらしておくと白くなる。
- ・コウゾのせんいとねり(とろろあおい)は、冷水でないとまざらない。
- ・田畑の農作業が少ない季節は、和紙づくりにたくさんの時間を取ることができる。

### コラム 紙づくりの昔の道具

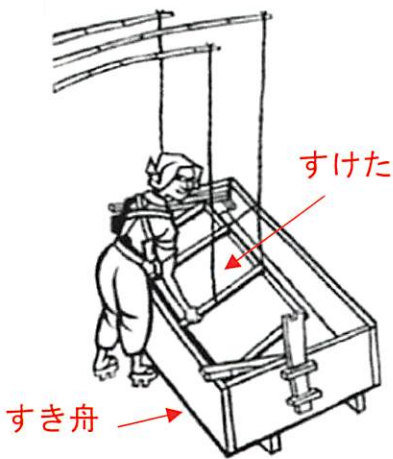


#### ▲ すけた

すきふねのなかで左右に動かし、原料のせんいどうしをよくからませる。

#### ▲ すきふね

コウゾとねりをませた水の入った水そう



▲④ 紙すき作業  
(アワガミファクトリーHPより)

### (3) 阿波和紙の輸送とはん売

今から約300年前の江戸時代に、徳島藩は、農民たちに和紙作りをしょうれいしました。農民たちの作った和紙は、吉野川の川船で、徳島藩の城下町(現在の徳島市)に運ばれました。そこから商人たちによって大阪や全国各地へはん売されました。これによって和紙は、阿波(現在の徳島県)の特産物として、全国に知られるようになりました。



#### ⑤ 吉野川の「平田船」

吉野川上流から、藍・紙・たばこ・木炭・たきぎなどを運んだ。

(三好市・阿波池田たばこ資料館の展示より)



# あわわし 阿波和紙の特ちょう

阿波和紙には、どのような特ちょうがあるのでしょうか。

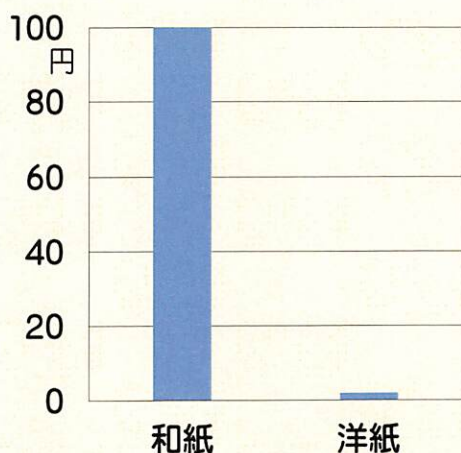


▲① 藍染め和紙作りの様子（アワガミファクトリーHPより）

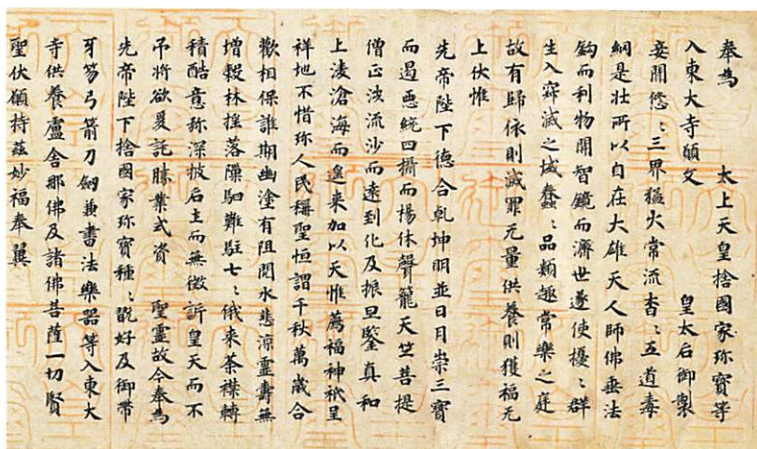
## （1）和紙と洋紙のちがい

身の回りにある紙でできているものは、大部分が洋紙でできています。洋紙は、古紙や木材の残りも利用するので原材料費が安く、さらに機械で一度にたくさん生産できます。しかし、洋紙はせんいの長さが短く細いので、かんたんにやぶれてしまい、変色や変しつが起こりやすい欠点があります。

和紙は原料のせんいが長いため、うすくてもじょうぶで、水に強い特ちょうを持っています。そのため、1000年以上も前にすみで書かれた文書が、現在もきれいに残っています。また、和紙は、せんいのすき間を空気や光が通るため、昔からしょうじやちようちんなどの生活道具にも用いられてきました。



▲② 和紙と洋紙のねだんのひかく

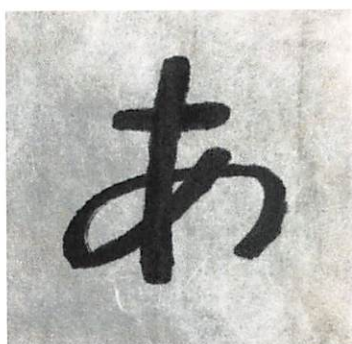


▲③ 奈良時代の756年に書かれた文書  
(正倉院宝物・国家珍宝帳 東京国立博物館HPより)

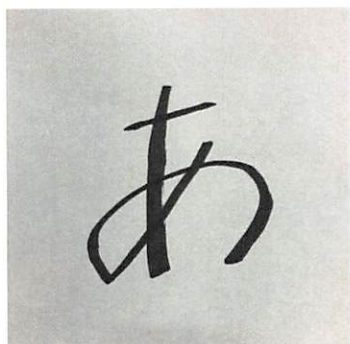


和紙作りは、ほとんどが手作業で行われるため、作る人や産地によって少しずつちがいが生まれます。それぞれの産地の持ちょうを生かした、やわらかさやあたたかみのある紙が作られています。吉野川市は、徳島県の特産品である<sup>とくしまけん</sup>藍で和紙を染めた、<sup>あいぞ</sup>藍染め和紙が有名です。

しかし、和紙は一度に多くの量を生産することができません。さらに、洋紙の約3倍もの原材料が必要です。このため、ねだんが高くなります。また、和紙はせんいのすき間が多いため、インクがにじみやすく、プリンターなどの印刷には向きません。



▲④ 和紙の文字



▲⑤ 洋紙の文字



和紙と洋紙にペンで字を書いてみたよ。持ちょうを比べてみよう。

## (2) 阿波和紙のかかえる問題 ~阿波和紙伝統産業会館の人の話~



和紙があまり使われなくなって、紙すき農家がなくなりました。現在、阿波和紙を生産しているのは、一つの会社だけです。また、原料を日本で得ることがむずかしくなって、外国からの輸入にたよっています。

### コラム

#### 阿波和紙伝統産業会館

吉野川市にある、阿波和紙作りの見学や体験ができるしせつです。現在は、阿波和紙伝統産業会館だけが阿波和紙作りを行っています。藍で和紙を染めた「藍染め和紙」が有名です。





# あわわし 阿波和紙の新しい文化をつくる

阿波和紙を今にいかすために、どのような取り組みをしているのでしょうか。



▲① アーティストによる地域の小学生への授業  
(家庭画報 com 2018年2月20日より)

何をしているのかな。



## (1) 伝とう産業を守る

<sup>とくしまけん</sup>徳島県はパンフレットを作成して<sup>あわわし</sup>阿波和紙の文化を広め、県の物産店で阿波和紙を使った商品をはん売して、伝とう産業を観光にいかしています。

吉野川市の小学校では、6年生が自分たちの卒業しょう書を手すき和紙で作って、地元の伝とう産業を活用しています。



▲② 川田小学校6年生による阿波和紙の卒業証書作り  
(『徳島新聞』2016年12月10日号より)

## (2) 阿波和紙の新たな文化を広める

<sup>あわわし でんとうさんぎょうかいかん</sup>阿波和紙伝統産業会館では、<sup>げんだい</sup>現代のぎじゅつを取り入れて、阿波和紙の新たな使い方を広めています。例えば、阿波和紙に特別な加工をして、和紙の写真用紙を開発しました。プリントした写真には、和紙ならではの<sup>どくとく</sup>独特な質感や色合い、やわらかなふんいきが表現できます。



▲③ 阿波和紙にプリントした写真  
(アワガミファクトリーHPより)



他にも、電気照明<sup>しょうめい</sup>やうちわなど私たちの日じょう生活品に阿波和紙<sup>あわわし</sup>を用いています。また、阿波和紙を用いた海外との文化交流も盛んになっています。

### ① アワガミ・アーティスト・イン・レジデンス

吉野川市の工ぼうへ日本や海外の芸術家<sup>げいじゅつか</sup>をまねき、地元の住民といっしょに生活をしながら、阿波和紙を使った作品作りや、小中学校でアートの授業をしています。阿波和紙を生かした新たな芸術を発信しています。



(阿波和紙伝統産業会館 Facebook より)

Awagami International  
Miniature Print Exhibition (AIMPE) 2019  
世界で唯一 和紙の版画公募展  
The worlds only juried printmaking show exclusively for works on washi



作品募集/Call for Entries  
募集期間  
Open Entry Period 2019.5.1 [Wed] ~ 2019.7.31 [Wed]

### ② 国さいミニプリント展<sup>てん</sup>

世界中から版画作品<sup>はんが</sup>が集まり、展示<sup>てんじ</sup>されます。阿波和紙のみりよくを広め、吉野川市という地いきから新たな和紙文化を世界に伝えることを目的としています。

### ③ 紙すき研しゅう会

手すき和紙について学び、原料の処理<sup>しゅり</sup>や紙すき、乾燥<sup>かんそう</sup>などの伝とう的な技法<sup>ぎほう</sup>やせん門的な知しきを、学ぶことができます。海外からも毎年多くの参加者があります。



(『徳島新聞』 2017年1月16日号より)

## まとめ ~阿波和紙<sup>あわわし</sup>を今にいかす~

阿波和紙の特ちょうを生かした新たな使い方を考えて、しょうかいしてみよう。





▲① 美馬市の吉野川沿いの地域 (美馬市 HP より)



▲② 美馬市内の4地区

## 美馬市に残る古い建物

美馬市にのこる  
歴史的な建物に  
ついて知ろう。

### (1) 自然ゆたかな美馬市

けんたくんのクラスでは、写真や地図からわかることについて話し合うことになりました。



「美馬市は徳島県の北西部、内陸にあるまちです。」



「市内は、美馬、脇町、穴吹、木屋平の四つの地区に分かれています。」



「市の南部には、山々が広がっています。市内を東から西に吉野川が流れています。吉野川に平行して鉄道と高速道路が通っています。」



「吉野川のまわりは平らな地形です。この場所には、たくさん建物がみられます。」



▲③ 美馬市の位置



## (2) 今にのこる古い建物<sup>たてもの</sup>

美馬市<sup>みまし</sup>には歴史的な古いたて物を残す地いきがあります。その一つが脇町地<sup>わきまち</sup>区の南町です。国は、脇町のまちなみ全体を歴史的に重要文化ざいに指定<sup>じゅうよう</sup>しています。

もう一つは、美馬地区の寺町です。ここには、安楽寺<sup>あんらくじ</sup>、願勝寺<sup>がんしょうじ</sup>、林照寺<sup>りんしょうじ</sup>、西<sup>さい</sup>教寺<sup>きょうじ</sup>の四つのお寺が集まっています。もっとも古いお寺は、今から約800年前の平安時代<sup>へいあんじだい</sup>に始まったといわれています。



▲④ 安楽寺の山門



▲⑤ 願勝寺の山門

また、木屋平地区<sup>こやだいら</sup>には、徳島県内<sup>とくしまけん</sup>でもっとも古い民家の三木家住宅<sup>みきけじゅうたく</sup>が残っています。今から約400年前の江戸時代のはじめに建てられました。



▲⑥ 三木家住宅

### コラム 脇町劇場 (オデオン座)<sup>わきまちげきじょう</sup>

約80年前に脇町の人たちが建てたしばい小屋です。古くなってこわされる予定でしたが、映画『虹をつかむ男』のロケ地になったことがきっかけでしゅうふくされ、今でも歌やおしばい、落語などの公演<sup>こうえん</sup>やイベントが行われています。





## うだつのまちなみをほぞんする

うだつのまちなみをどのように受けついでいるのでしょうか。

藍商人の家につくられた「うだつ」とは何？  
何のためにつくったの？



### (1) 藍商人<sup>あいしょうにん</sup>のつくったうだつのまちなみ

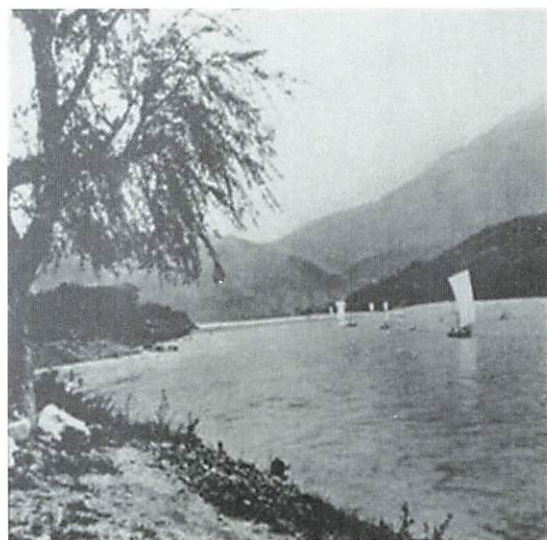
脇町<sup>わきまち</sup>地区は、吉野川<sup>よしのがわ</sup>に面しています。今から約400年前の江戸時代<sup>えどじだい</sup>に、脇町には藍商人たちが住み、川船で藍を運び商売をしていました。商人たちの家は、すきまなく建てられて、まちなみをつくっていました。

「うだつ」は、火事がおきた時、となりの家に火がもえ移<sup>うつ</sup>らないようにする防火のやくわりがあります。

「うだつ」をつくるには、多くの費用がかかります。藍の商売でかせいだ商人たちは、ごうかなかざりとして自分の家に「うだつ」をつくるようになりました。



▲① 脇町地区の家にみられる「うだつ」

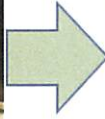


▲② 昔の吉野川の船ゆそう  
(美馬市 HP より)





▲③ しゅうり前のまちなみ



▲④ 今のせいびされたまちなみ

## (2) うだつのまちなみをほぞんする

市役所の職員<sup>しよくいん</sup>や地いきの住民は、うだつのまちなみをほぞんするため、さまざま取り組みを行っています。

昔のすがたを取りもどすために、電柱や水路を地下にうめて、古くなってこわれた家にほじょ金を出してしゅうりしています。

また、美馬市<sup>みまし</sup>は、地いきの文化としてうだつまちなみを観光<sup>かんこう</sup>にいかすため、パンフレットやホームページを通じてじょうほうを発信しています。観光文化資料<sup>かんこうぶんかしりょう</sup>

館<sup>かん</sup>では、協町の歴史をわかりやすくてんじしています。住民と協力して、まち歩きのガイドや、伝とう産業であった和傘<sup>わがさ</sup>作りの復活<sup>ふっかつ</sup>に取り組んでいます。



▲⑤ マスコットキャラクター「うだつまる」  
(うだつまる Facebook より)

## (3) 美馬観光ビューローの人の話<sup>みまかんこう</sup>



私たちは市役所や住民と話し合い、協力してうだつのまちなみを観光にいかす取り組みをしています。最近ではまちなみのなかで、いけ花の展示<sup>てんじ</sup>や阿波おどり<sup>あわ</sup>などのイベントを行いました。



## 古いまちなみをいかした住民の活動



▲① うだつのまちなみの案内ボランティア



▲② 協町の住民によるイベント準備の様子  
(①・② 美馬市観光ビューローHP より)

地いきの人々は、古いまちなみをいかして、どのような活動をしているのでしょうか。



住民ボランティアは、観光客に何をしているのだろうか？

### (1) 観光にいかす (まちなみ案内人)

わきまち  
協町地区では、住民が中心となって、うだつのまちなみにおとずれるかんこうきゃく観光客へのガイドが行われています。これは、観光客といっしょにまちなみを歩きながら、まちの歴史や建物のたてもの特ちょうなどを説明して、今に残る伝とう文化をしょうかいするボランティア活動です。

みま  
美馬地区の寺町でも、住民とお寺の住職じゅうしやくが協力して、お寺の歴史と文化ざいをしょうかいするボランティア活動を行っています。観光客に美馬地区のみりよくを知ってもらおうと同時に、受けついできた文化ざいをいかした地いきづくりに取り組んでいます。

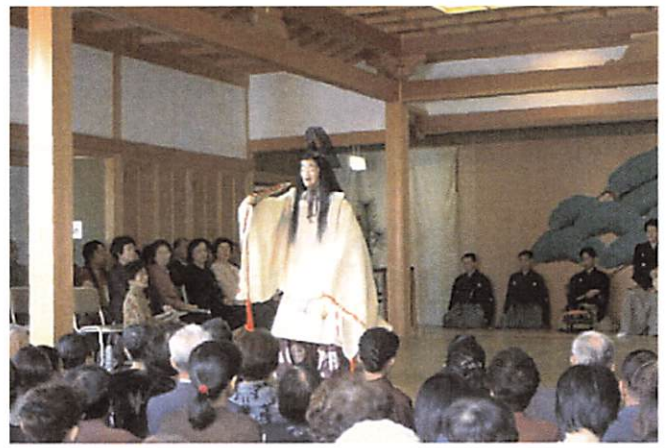
### (2) 文化活動の場<sup>のう</sup>にいかす (能<sup>きょうげん</sup>や狂言<sup>こうえん</sup>の公演)

私たちは先祖<sup>せんぞ</sup>を供養<sup>くよう</sup>するなどくらしの中でお寺にかかわってきました。寺町にある安楽寺<sup>あんらくじ</sup>には、能舞台<sup>のうぶたい</sup>がつくられました。能舞台では毎年6月に狂言が、10月には能が行われています。寺町の住民は、日本の伝とう文化を身



近な場所で見ることができます。

このように古い文化ざいを受けつぐとともに、それを活用した新たな活動が生まれています。



▲③ 安楽寺で行われている能（安楽寺 HP より）

あんらくじ  
○安楽寺の住職さんのお話



昔からお寺は地いきの人々の生活とともにありました。安楽寺の能舞台にはたくさんの住民がおとずれます。ほかに、住民と小さなお祭りを開く、小学生と吉野川よしのがわの自然ほご活動を行うなど、住民と協力した地いきづくりの活動を大切にしています。

ちさんちしょう  
(3) お店にいかす（地産地消のお店）

わきまち 脇町地区のうだつのまちなみでは、古い建たて物をせいびしてお店として利用しています。

かんこうきやく 観光客だけでなく、地いきの住民が集まるふれ合いの場となっています。



▲④ 昔の藍蔵を利用したお店

○うだつさぼうさんのお話



私は東京から徳島とくしまへ引っこしてきました。お店は、昔の藍蔵あいぐらをしゅうふくしたものです。お店では手作りのランチやスイーツ、飲み物を出しています。地元の食材を使い、地産地消ちさんちしょうを目指しています。たくさんの観光客に来てもらうだけでなく、地いきの住民も立ちよれるお店を目指しています。



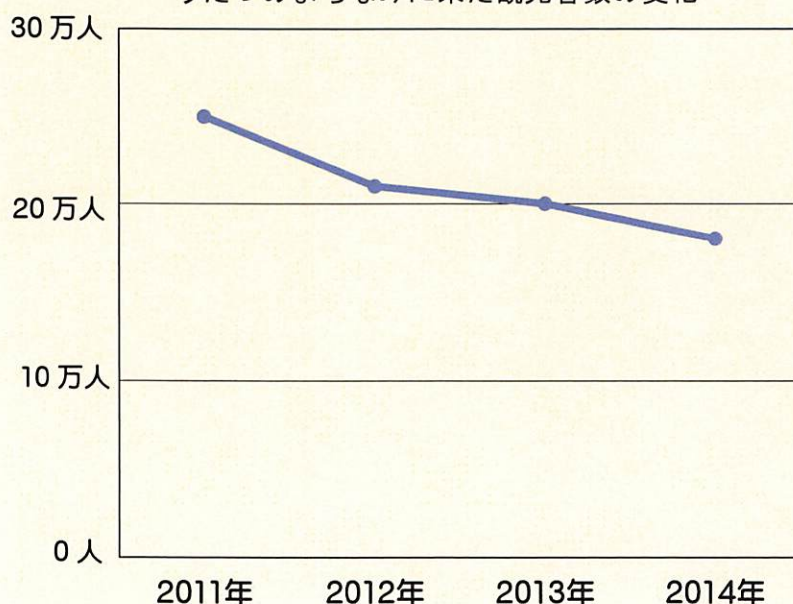
## これからのまちづくり

大事な文化ざいを  
どのように地いきづ  
くりにかしたらよ  
いのでしょうか。



観光客数はどの  
ように変化して  
いるだろう。

うだつのまちなみに来た観光客数の変化



### (1) うだつのまちなみのかかえる課題

脇町地区では、市役所の職員、地区の住民、古いまちなみにお店を出している人など、たくさんの方がうだつのまちなみをほぞんし、今にかして地いきづくりに取り組んでいます。しかし、地いきの文化ざいを大事に残して、しょうらいへ引きついでいくには、いくつかのなやみもかかえています。

#### ○ まちなみ案内人(ボランティア)の住民



住民は、おとしよりが多くなり、空き家もふえて、ボランティアをする人もへっています。古い建物<sup>たてもの</sup>はもろく、地震などの災害<sup>さいがい</sup>が発生したらこわいです。

#### ○ まちなみ保存会の会長さん



まちなみにある家は国の重よう文化ざいで、かんたんにしゅうりができません。いじに費用がかかってしまう。  
他の地いきの人たちにも、まちなみのほぞんに協力をしてもらう必要があります。



わきまち  
(2) 脇町の住民と他の地いきの人たちの文化交流



① うだつまつり・阿波おどり大会

うだつのまちなみで、ダンス、三味線しゃみせんえんそう、もちつき、阿波おどりなど、さまざまなイベントが行われています。イベントでは、観光かんこうに来た他の地いきの人も参加して、地元の住民とふれ合う交流の場となります。



② うだつがあがる芝居公演

脇町劇場わきまちげきじょう（オデオン座）に京都の東映太秦の俳優はいゆうさんが来て、美馬市内の子どもたちが結成した「美馬市劇団あおいろげきだん」といっしょに時代劇を行います。他にも芸能人、落語家、音楽家や芸術家げいじゆつかが来て、公演こうえんを行っています。

古い建物たてものやまちなみをしょうらいに引きつぐには、他の地いきの人々の協力や交流を通して、文化遺産ぶんかいさんを今いかす新たな活用が必要です。

地いきの人々の立場に立って、新たな取り組みを考えてみましょう。

**まとめ** ～私たちが考える地いきづくり～

古い建物たてものやまちなみをいかして、どのような活動を行いますか？  
新たな提案をしてみよう。

---

---

---

---



徳島県にやって来る外国人について知ろう。

## 徳島県にやって来る外国人

### (1) 外国人との文化交流の歴史

#### ○モラエスによる徳島のしょうかい

▲① モラエス

モラエスは、今から約150年前にポルトガルで生まれ、海軍の軍人として日本に来ました。その後、徳島県生まれの福本ヨネと結こんしました。ヨネが亡くなった後は、徳島市に定住して一生を送りました。

モラエスは、『徳島の盆踊り』などの本を書いて徳島の人々の生活の様子や文化をヨーロッパにしょうかいしました。



▲② モラエスの書さいのふくげん

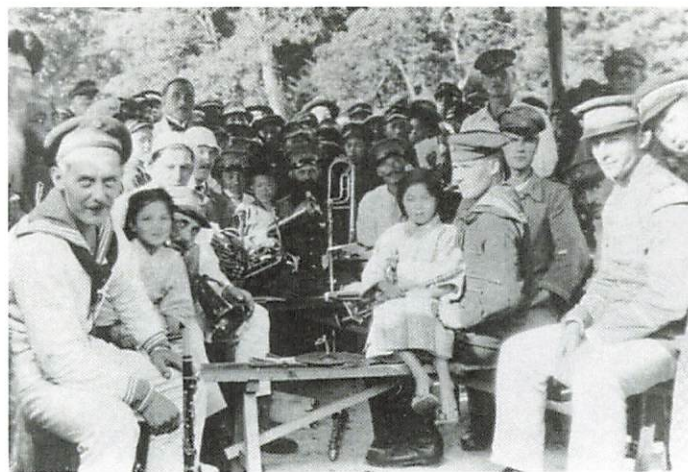
#### ○ドイツ兵との交流

鳴門市にあるドイツ館に行くと、板東ふりよ収容所しゅうようじょですごしたドイツ兵の活動や住民との交流の様子がわかります。

世界で大きな戦争のあった1917年に収容所しゅうようじょがつくられ、ドイツ兵がく

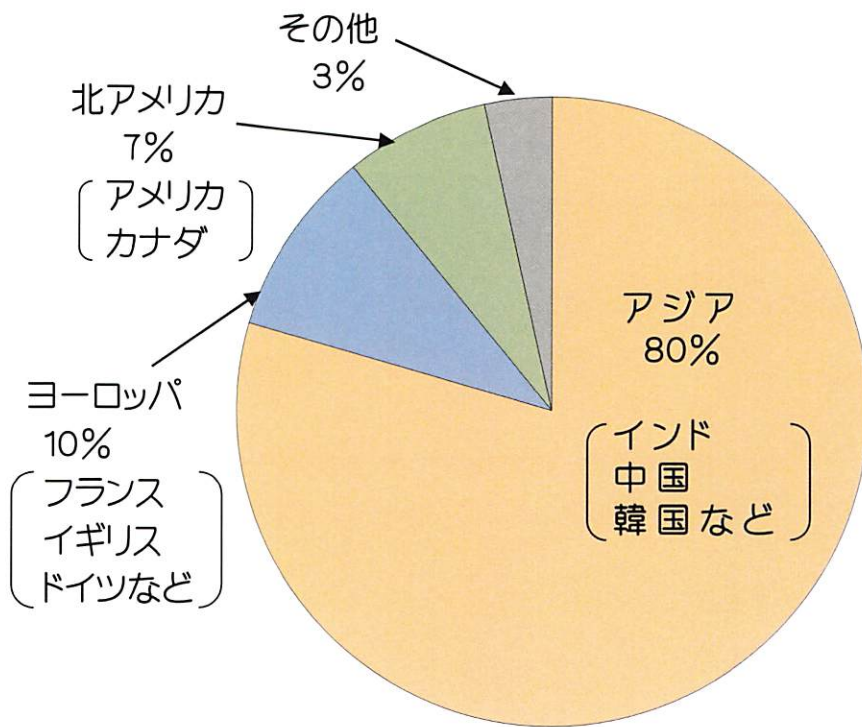
らしていました。ドイツ兵は地いきの住民にドイツのパンやケーキの作り方を教え、いっしょに農作業を行い、伝とう工芸品を作って交流をしました。

また、オーケストラを組んで、アジアではじめてベートーヴェンの「交響曲こうきょうきょく第九番」のコンサートを開きました。鳴門市では、現在でも市民が「なるだいと第九」の演奏会えんそうかいを毎年行っています。



▲③ 収容所での交流の様子（ドイツ館HPより）





▲④ 徳島県をとおす外国人の出身地域  
 (「徳島県のインバウンド需要」訪日ラボ HP より)

|       |      |  |
|-------|------|--|
| アジア   | インド  |  |
|       | 中国   |  |
|       | 韓国   |  |
| ヨーロッパ | フランス |  |
|       | イギリス |  |
|       | ドイツ  |  |
| 北アメリカ | アメリカ |  |
|       | カナダ  |  |

## (2) 徳島県にやって来る外国人の観光客

徳島県には、アジアとヨーロッパの国々からの観光客がたくさんやって来ます。一年間に徳島県へ観光に来た外国人は、約7万9千人です。この人数は、全国の47都道府県の中で第44位になります。

多くの外国人に来てもらい、地いきの人たちとの交流をさかんにするには、徳島県に来なければできない体験や活動など、独自のみによくを知ってもらうことが大切です。

### コラム 徳島市・鳴門市の海外の友好都市

住民が国際的な視野を広げるために、海外の都市と協定を結んで文化などさまざまな分野で交流を行っています。

(海外の友好都市)

|     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 徳島市 | サギノー市(アメリカ)、レイリア市(ポルトガル)、丹東市(中国) |
| 鳴門市 | リュネブルク市(ドイツ)、帳家界市(中国)、青島市(中国)    |



# 外国人のお遍路さん

外国人は、なぜ四国遍路にやってくるのでしょうか。



▲① 大鳴門橋  
(ツーリズム四国 HP より)

## (1) 四国地方の入口～鳴門市・徳島市～

徳島市・鳴門市の瀬戸内海に面した港では、関東や北九州を行き来するフェリーが運航しています。鳴門市と淡路島にかかる大鳴門橋は、1985年に完成しました。この橋は、四国地方と関西地方を結ぶ自動車道路です。

鳴門市と徳島市には含まれた松茂町には、徳島空港があり、東京・福岡・香港(中国)と航空機が行き来しています。

徳島市、鳴門市や松茂町は、日本各地や外国から、徳島県にやって来る時の入口となっています。

## (2) 四国遍路

四国地方は、昔、仏教の僧たちの修行の場でした。約1200年前の平安時代に空海(弘法大師)という僧がいました。四国地方には、空海と関係の深い八十八か所のお寺があります。このお寺に願いごとをして回る(巡礼する)ことが四国遍路です。

巡礼をする人は「お遍路さん」とよばれ、お寺に願いごとを書いたお札をおさめます。このため、お寺を札所とよんでいます。札所には、順番に番号がつけられています。鳴門市にある霊山寺は、四国遍路の出発となる第一番札所です。第一番から二十三番札所までのお寺が徳島県内にあります。



▲② 一番札所・霊山寺(鳴門市)



▲③ 歩き「お遍路さん」  
(②・③ 阿波ナビ HP より)



### (3) 外国人お遍路さんの増加

四国遍路の目的や様子は、時代とともに変わってきました。昔は、僧が修行のために歩いて回っていました。一般の人々に空海への信こうが広まると、多くの人々が四国遍路に来るようになりました。現在は、観光を目的とする人が大部分で、バスや自動車で札所お寺をめぐるります。

また、最近では、外国人のお遍路さんが、歩きや自転車で札所を回るすがたを多く見かけるようになりました。その目的は、「仏教や空海に関心がある」「日じょう生活からぬけ出したい」「お接待をけいけんしたい」「人と出会うため」「地元の文化を経験するため」などとされています。



学芸員さん

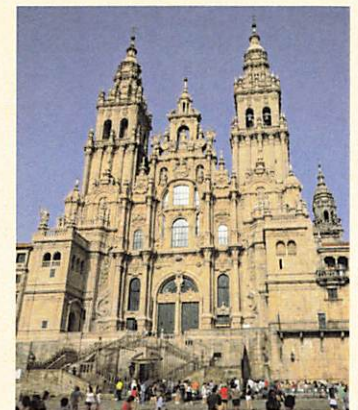
世界にもいろいろな巡礼の道があります。

### ○ヨーロッパの「サンティアゴ巡礼の道」(世界遺産)

スペイン北西部にあるサンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂は、キリスト教の教会です。ここに向かって、ヨーロッパ各地から巡礼の道がのびています。

巡礼の道を歩く人たちには、信者だけでなく観光客もたくさんいます。

四国地方の4つの県は、スペインのガリシア州と協定を結び、文化交流や観光分野の協力を深めています。



▲④ 大聖堂  
(ウィキペディアより)

### コラム

#### お遍路に必要なもの



お遍路をしていることを示します。

#### 輪袈裟



もともと袈裟(けさ)として、僧の衣服の意味があります。

#### 金剛杖



つえには空海(弘法大師)が宿るといわれています。頭部の部分は、金欄(きんらん)という布でかかっています。

#### 念珠



数珠(じゆず)ともいわれ、仏様のお参りに使います。

#### 納経帳

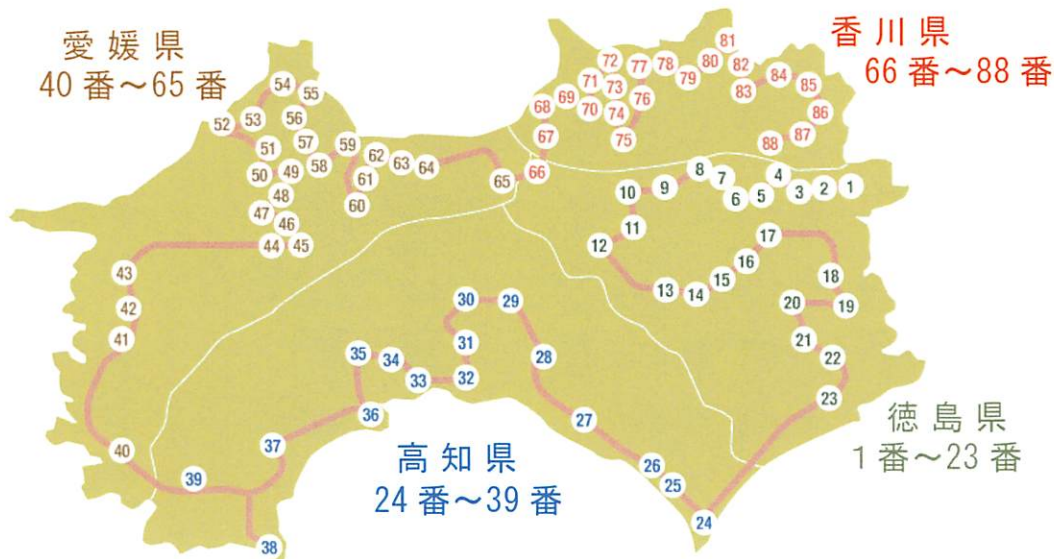


お寺でおきょうを唱えた証として、ご朱印(しゆいん)をもらう帳面です。



せかいいさん とうろく  
**世界遺産の登録に向けて**

しこくへんろ  
 四国遍路を世界  
 に広めるための  
 取り組みを知ろ  
 う。

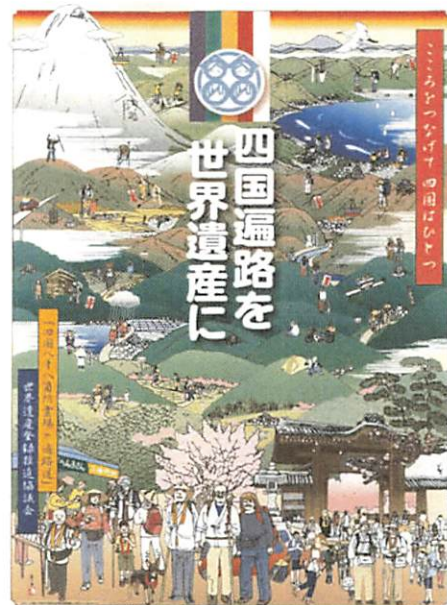


▲① 四国八十八か所の遍路

しこくへんろ  
**(1) 四国遍路を世界へ**

四国遍路の世界遺産への登録に向けた取り組みが行われています。八十八か所のお寺を結ぶ道は、四国地方の4つの県すべてにまたがっています。世界遺産登録には、4県全体で協力する必要があります。

その中心になるのが、世界遺産登録推進協議会です。この会は、県や市町村、市民の団体(NPO)、八十八か所のお寺、大学や企業などさまざまな立場の人たちが協力して活動しています。



▲② 世界遺産登録推進協議会の作ったポスター

せかいいさんとうろくすいしんきょうぎかい  
**○ 世界遺産登録推進協議会の取り組み**

| けんきゅう<br>【研究】                          | ほご<br>【保護】                | せいび<br>【整備】                         | 【広める】                                |
|--|---------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 他の地いきと比較して、国さい的なしてんに立って四国遍路のみりよくを研究する。 | 四国遍路をほごし、その文化を受けつぐ方法を考える。 | 札所周辺や遍路道のせいびを行い、文化的な景観がこわされないようにする。 | 住民や国内・海外から四国に来た人たちに、世界遺産登録の活動を広ぼうする。 |



## (2) 「お接待」の文化を受けつぐ住民の活動

歩いて四国遍路を回るとは、苦しく、つらい道のりです。四国地方には昔から「お接待」の文化がありました。お接待とは、住民がお遍路さんをはげますため、おかしや飲み物・食べ物をていきょうする、声をかけておうえんすることです。

四国遍路を歩く外国人たちは、地いきの人たちとの出会いを楽しみにしています。鳴門市の第一番札所の周辺には、現在もボランティア活動としてお接待を行っている住民がいます。住民たちは、100年前の建物をしゅうりして、「一番さんの縁どころ」というお接待所を作りました。外国人のお遍路さんへ英語で声かけをすることや、英語で書いた案内を作っています。

住民たちは、お遍路さんにお接待をすることで、功德を得ることができる（よい行いをすることで、自分も幸福になる）と考えて活動しています。



▲③ 住民たちのお接待所  
「一番さんの縁どころ」の様子(まなびジャパンHP「遍路と共にあるお接待文化」より)

### コラム ○アメリカのニューヨーク・タイムズ紙HP「世界でいくべき52か所」

2015年に日本で1か所だけ、四国地方と遍路のみりよくがしょうかいされました。



#### 35. Shikoku, Japan

Anniversaries abound on Japan's smallest main island.

Shikoku, the smallest of Japan's four main islands, is the site of a pilgrimage trail established in 815 that winds past 88 temples. Since celebrations of the ancient route's 1,200th anniversary were held last year, the 750-mile trail can be enjoyed in relative peace. One particular stop of note is the city of Matsuyama. It is home to several of the temples and the castle-like Dogo Onsen bathhouse, which at 120 years old is one of the country's oldest natural hot-spring public baths. And a new Japan Rail pass, released to commemorate the 50th anniversary of the high-speed Tokaido Shinkansen, will make traveling between Tokyo and the island by train even easier this year.

INGRID K. WILLIAMS





なぜ遍路文化で外国人との交流を進めなければならないのでしょうか。

### コラム

#### 最も古い外国人お遍路

最も古い外国人お遍路さんは、1921年に平等寺をおとずれたスタール博士です。博士は、住民が花火を打ち上げてくれたり、地元のボーイスカウトが出発を見送ってくれたりなどと、おもてなしを受けたそうです。



▲① スタール博士と住民  
(徳島新聞 2016年5月1日号)

#### (1) 四国遍路の抱える課題

国内・国外から多くの人が、観光として四国遍路に来るなかで、いくつかの課題も見えてきました。



##### ○ 札所の住職さん

最近はツアーで、お寺に来る人が多くなりました。うれしいのですが、仏さま・弘法大師さまにお参りせず、写真だけをとって帰る人がいます。それで良いのかと思っています。



##### ○ 住民のAさん

道路がせいびされ、札所のお寺へバスや車でかんたんに行くことができるようになりました。しかし、自然と一体になった昔の遍路の風景がうしなわれているように感じます。



##### ○ 住民Bさん

最近は、外国人の歩きお遍路さんが増えていきます。しかし、歩き遍路の人たちが、野宿をしていて、とても心配です。何か事故が起こってからではおそいので、たいさくをしてほしいと思っています。

#### (2) 外国人お遍路さんの受け入れ

四国遍路に来る外国人は、「言葉や日本の生活しゅうかんがわからない」、「地いきの事情がわからない」、「遍路の作法がわからない」といった不安を



かかえています。さらに、多くの日数をかけて札所を回るので、「とまる所が  
少ない、<sup>しゆくはくりようきん</sup>宿泊料金が<sup>ふだしよ</sup>高い、外国人向けのサービスがない」とこまっています。



○ <sup>とくしまだいがく</sup>徳島大学のモートン先生

<sup>へんろ</sup>お遍路の一番のみりよくは、「<sup>たしや</sup>他者を受け入れる心」です。  
この心がお<sup>せつたい</sup>接待の文化を支えています。私もこの遍路文化  
のすばらしさを、世界に向けて伝える取り組みをしています。



**コラム** <sup>ぜんこんやど</sup>善根宿

善根宿とは、住民たちがお<sup>へんろ</sup>遍路さんに無料で、  
<sup>しゆくはくじよ</sup>宿泊所をていきょうすることです。お<sup>せつたい</sup>接待の一つ  
で、昔から地いきの住民が行っていました。

〔<sup>あなんし</sup>② 阿南市の第22番札所・平等寺の近くにある善根宿。  
地いきの金物店が歩き遍路さんに、宿泊所をていきょうしている。〕

(3) <sup>しこくへんろ</sup>四国遍路による<sup>こくさいこうりゆう</sup>国際交流

外国の人々が四国遍路にやって来るのは、その地いきに足を<sup>はこ</sup>運ばなければ  
得られない<sup>たいけん</sup>体験や<sup>けいけん</sup>経験を得るためです。そのような外国の人たちと交流を持  
つことで、私たち自身も毎日の生活のなかで当たり前と思って気づいていな  
かった地いきのよさ、地いきの<sup>どくじ</sup>独自の文化を見つめ直すことができます。

**まとめ** ～外国人との交流をさかんにするために～

私たちも今一度、四国遍路のみりよくを考えて、それをどの  
ようにして世界に発信していけるか、考えてみましょう。

---

---

---



## 【調査協力者・協力機関】

- ・徳島大学准教授 モートン常慈(デイビッド)氏
- ・美馬市児童委員協議会 松永住吉氏
- ・美馬市脇町まち並み保存会会長 甘利稔氏
- ・安楽寺住職 千葉恒乗氏
- ・徳島県庁観光課
- ・大日寺納経所
- ・極楽寺副住職 安芸実英氏
- ・美馬市寺町ボランティア 西前清美氏
- ・美馬市観光ビューロー 徳永和巳氏
- ・阿波和紙伝統産業会館 住友義正氏, 藤森美恵子氏
- ・美馬市観光交流センター うだつ茶房, 藍染工房
- ・鳴門市ドイツ館
- ・徳島市モラエス展示場

## 【参考文献・web サイト (主要なもの)】

『江戸時代 人づくり風土記 36 徳島』石川松太郎, 農山漁村文化協会, 1996 年 10 月 / 『図説 徳島県の歴史』三好昭一郎, 河出書房新社, 1994 年 11 月 / 『生業から見る地域社会～たくまじき人々 (阿波・歴史と民衆)』徳島地方史研究会, 教育出版センター, 2011 年 3 月 / 『藍住町史』藍住町, 1965 年 / 『北島町史』北島町, 1975 年 3 月 / 『北島町史・続編』北島町, 2018 年 3 月 / 『徳島県の歴史散歩』歴史散歩編集委員会, 山川出版社, 2009 年 7 月 / 『徳島発展の歴史的基盤』地方史研究協議会編, 雄山閣, 2018 年 10 月 / 石躍胤央・高橋啓『徳島の研究 第 7 巻 民俗篇』清文堂出版株式会社, 1982 年 7 月 / 宇山清人『阿波の手漉和紙』株式会社教育出版センター, 1980 年 10 月 / 宇山清人『荒妙と川田和紙』阿波和紙伝統産業会館, 1989 年 / 小林良生『四国は紙国～四国和紙の里紀行～』美巧社, 2015 年 3 月 / 小林良生『和紙の里紀行～続和紙周遊～』美巧社, 2015 年 2 月 / 『山川町史』改訂山川町史刊行会, 1987 年 / 『徳島の物産 No.5 阿波の手漉和紙』徳島県物産観光館, 1977 年 / 『平成 17 年度 伝統産業調査診断事業報告書-阿波和紙-』財団法人伝統的工芸品産業振興協会, 2006 年 / 國見慶英『うだつの町並みと町家の歴史』2006 年 12 月 / 『脇町史』上巻, 脇町史編集委員会, 1999 年 9 月 / 中西徹『うだつ～その発生と終焉』二瓶社, 1990 年 1 月 / 白井加寿志「四国遍路の実態」石躍胤央・高橋啓『徳島の研究 第 7 巻 民俗篇』清文堂 1982 年 7 月 / 宇山清人「阿波手漉和紙考」石躍胤央・高橋啓『徳島の研究 第 7 巻 民俗篇』清文堂, 1982 年 7 月 / とくしま地域政策研究所編『吉野川事典～自然・歴史・文化～』農山漁村文化協会, 1999 年 3 月

ツーリズム四国(<https://shikoku-tourism.com/>), 日和佐ウミガメ博物館カレッタ(<http://caretta-hiwasaka.com/>), 大和ハウス工業・スタッフからの現地便り(<https://www.daiwahouse.co.jp/shinrin/blog/>), 徳島県観光譲情報サイト・阿波ナビ(<https://www.awanavi.jp/>), ANA-Japan Travel Planner(<https://www.ana.co.jp/group/>), アワガミファクトリー(<http://www.awagami.or.jp/>), 美馬市(<http://www.city.mima.lg.jp/>), 三好市観光情報サイト(<https://miyoshi-tourism.jp/>), 東京国立博物館(<https://www.tnm.jp/>), 美馬市観光ビューロー(<https://www.mimakankou.com/>), 安楽寺・美馬市寺町(<http://www.anrakuji.net/>), 鳴門市「なると第九」(<https://www.city.naruto.tokushima.jp/>), 鳴門市ドイツ館(<http://doitsukan.com/>), 旅ネット四国(<https://www.junpai.co.jp/>), 四国八十八箇所と遍路道「世界遺産登録推進協議会」(<https://88sekaiisan.org/>), 徳島新聞電子版(<https://www.topics.or.jp/>), 阿波和紙伝統産業会館 Facebook(<https://www.facebook.com/>), 家庭画報.com「2018 年 2 月 20 日号」(<https://www.kateigaho.com/travel/15711/>), まなびジャパン「遍路と共にある遍路文化より」([https://manabi-japan.jp/travel-destination/20180530\\_3025/](https://manabi-japan.jp/travel-destination/20180530_3025/)), ニューヨークタイムズ紙「世界でいくべき 52 ヶ所より」(<http://www.terume.com/blog/1350>)



■ 監修・編著 六本木健志

■ 各項の編集執筆担当（文教大学教育学部社会専修 2019年度3年次生）

特色ある地いきと人々の暮らし 徳島県（井上雄太・寺田一平）

1 阿波和紙を受けつぐまち 吉野川市（津田歩実・室屋ちひろ・山口美咲）

阿波和紙ができるまで  
和紙作りのさかんな吉野川市  
阿波和紙の特ちょう  
阿波和紙の新しい文化をつくる

2 古い建物を守るまち 美馬市（井上雄太・瀬戸皓太郎）

美馬市に残る古い建物  
うだつのまちをほぞんする  
古いまちなみをいかした住民の活動  
これからのまちづくり

3 四国遍路の文化を世界に 鳴門市・徳島市（青木翔・杉本千陽・寺田一平）

徳島にやって来る外国人  
外国人のお遍路さん  
世界遺産の登録に向けて  
四国遍路による国際交流



小学校4年 社会（県の学習）  
県内の特色ある地域  
（徳島県）

---

2020年2月 印刷・発行

作成者 文教大学教育学部社会専修  
六本木 健志

〒343-8511  
埼玉県越谷市南荻島 3337  
文教大学教育学部社会科学研究室  
TEL 048 (974) 8933 直通

---



徳島県の地場産業・地域資源の保護・国際交流  
まだまだたくさんあります！調べてみよう！